

1 自己評価

(1) 努力目標と具体的実践事項に係る職員の自己評価

1 努力が必要 2 もう少し 3 おおむね達成 4 十分達成

項目	努力目標	具体的実践事項	前期	後期	
確かな学力の育成 かしこく	①自ら考え、表現する意識と能力の育成	単元全体を見通した授業デザインを基に、全員が参加する授業を行う。	2.6	↗ 2.8	
		調べたことや考えたことを文章等で表現する場を適宜仕組む。	3.0	↗ 3.1	
	②基礎的・基本的事項の徹底	「OKシリーズ」とICTを活用し、対話をとおして学び合う授業を実践する。	2.3	↗ 3.0	
		視点をもった振り返り活動を設定し、その時間の学びを明確にする。	2.2	↗ 2.6	
	③家庭と連携した家庭学習の習慣の定着	実態分析により、一人一人の課題把握に努める。	2.9	↗ 3.0	
		学習規律の指導を徹底する。	2.8	↗ 3.0	
豊かな心の育成 やさしく	④効果的なICTの活用	学力充実タイムを計画的に実施する。	2.8	↗ 2.8	
		家庭学習（宿題）の見取りを確実にを行う。	3.0	↗ 3.4	
	①人権尊重の意識の涵養を図る人権教育の推進	自主学習の取組方を指導し、認め褒めることで意欲を高める。	2.4	↗ 2.8	
		「OK家庭学習」を活用し、保護者とともに学習の習慣化に努める。	2.6	↗ 2.7	
	②心に響く道徳教育の充実	④各種調査の活用によるPDCAサイクルをベースにした学力向上の取組	結果分析に基づく課題改善プランを、日常指導で実践する。	2.4	↗ 2.4
		過去の問題を授業や補充指導に活用する。	2.5	↗ 2.8	
③いじめ・不登校を出さない学級経営・学校経営	結果分析等を基に、学力・学習状況について保護者等への説明に努める。	1.9	↗ 2.0		
	⑤個に応じた指導の充実と特別支援教育の推進	実態に基づいた指導計画を作成し、共通理解と実践に努める。	2.5	↗ 2.9	
たくましい心身の育成 たくましく	②安全教育と安全指導の徹底	特別支援教育の視点で誰もが分かる指導に努める。	2.6	↗ 2.8	
		必要に応じてケース会議をもち、また、保護者や関係機関との連携を図る。	2.8	↗ 3.0	
	③食に関する系統的指導の充実と家庭と連携した食育の推進	教師個々が授業で活用できるように努める。	2.8	↗ 3.2	
		児童用端末をいかした授業形態・活用方法の工夫に努める。	3.0	↗ 3.2	
	④働くことや協力することの大切さを実感できる教育活動の工夫	ICTドリルの有効な活用を図る。	2.7	↗ 2.7	
		①教科体育の充実と教育活動全体を通じた体力づくり	人権に配慮した教育環境（言語環境を含め）の整備に努め、人権教育を推進する。	2.7	↗ 3.0
ふるさとを愛する心の育成	②関係地域団体との連携強化	組織として、個人として積極的に研修に取り組み、自己変容を図る。	2.7	↗ 2.8	
		指導方法等の在り方について「第三次とりまとめ」等の資料を活用する。	2.2	↗ 2.4	
	③ふるさと学習等で地域の人材や教材等を積極的に活用する	家庭・地域に対する情報提供、家庭教育への啓発を積極的に進める。	2.3	↗ 2.8	
		多様な指導方法の活用により、「特別の教科 道徳」の授業の充実に努める。	2.4	↗ 2.8	
	④保健教育の充実と実践力の向上	道徳コーナーの充実により、道徳的実践力を高める。	1.6	↗ 2.8	
		「熊本の心」「つながり」を活用した道徳科の授業公開等、家庭・地域との連携を図る。	3.0	↗ 2.6	
①学校運営協議会の活用	一人一人に温かく、公平に接するなどして、命を大切にすることを育む。	2.9	↗ 3.0		
	あいさつをはじめ「岡原小マナー」を意識した生活指導に努める。	2.7	↗ 2.9		
②関係地域団体との連携強化	アンケート及び教育相談活動を充実させ、未然防止に徹する。	2.8	↗ 3.1		
	積極的に家庭・地域と連携し、未然防止の気運を高める。	2.8	↗ 2.9		
③ふるさと学習等で地域の人材や教材等を積極的に活用する	掃除（黙働）指導を徹底する。	2.2	↗ 2.6		
	係や委員会活動等における日常的活動の充実を図る。	2.6	↗ 2.8		
④保健教育の充実と実践力の向上	福祉・ボランティア活動の充実に努める。	2.0	↗ 2.3		
	①教科体育の充実と教育活動全体を通じた体力づくり	めあてをもたせ、運動の楽しさを味わわせる体育学習を実践する。	2.7	↗ 3.0	
②安全教育と安全指導の徹底	新体力テストの結果を活用して体力向上に努める。	2.0	↗ 2.6		
	休み時間の外遊びの奨励など積極的な体力作りに努める。	2.7	↗ 2.9		
③食に関する系統的指導の充実と家庭と連携した食育の推進	危険予知能力を高める安全教育を推進する。	2.8	↗ 2.9		
	防犯防災や交通安全指導等の徹底を図る。	2.8	↗ 3.0		
④保健教育の充実と実践力の向上	安全点検の実施後に、課題に対して迅速に対応する。	2.8	↗ 2.9		
	教科等との連携を図った食に関する指導を行う。	2.7	↗ 3.0		
①学校運営協議会の活用	給食指導を中心に清潔で楽しい環境作りとマナーを育成する。	2.8	↗ 2.9		
	望ましい食習慣の形成のために家庭との連携に努める。	2.4	↗ 2.8		
②関係地域団体との連携強化	健康観察の徹底及び健康課題の改善に努める。	2.8	↗ 2.9		
	健康診断の事前・事後指導や結果の活用に努める。	2.6	↗ 2.9		
③ふるさと学習等で地域の人材や教材等を積極的に活用する	基本的な感染症対策を励行する。	2.9	↗ 2.9		
	フッ化物洗口やていねいな歯みがき指導を徹底する。	2.9	↗ 3.0		
④保健教育の充実と実践力の向上	①学校運営協議会の活用	地域住民と顔の見える関係の構築に努める。	2.6	↗ 2.8	
	②関係地域団体との連携強化	くろばる会をはじめ地域関係団体と連携し、地域学校協働活動を推進する。	2.6	↗ 3.0	
③ふるさと学習等で地域の人材や教材等を積極的に活用する	地域関係団体の協力を伝え、地域とのつながりに気付かせ感謝の気持ちをもたせる。	2.6	↗ 2.9		
	ホームページ等を活用し、家庭・地域へ積極的に情報発信を行う。	2.3	↗ 2.0		
④保健教育の充実と実践力の向上	ふるさと学習等で地域の人材や教材等を積極的に活用する。	2.1	↗ 3.0		
	体験活動（栽培活動や地域探索等）の充実を図る。	3.0	↗ 3.1		
④保健教育の充実と実践力の向上	地域の行事等に積極的に参加するよう児童に働きかける。	2.4	↗ 3.1		

(2) 児童の姿等に係る児童の自己評価及び保護者評価結果を受けての職員の自己評価

児童・保護者の評価を受けた職員自己評価(前期)

		児童 平均値	保護者 平均値	職員 平均値	
評 価 内 容					
か し こ く	1	先生や友達と、楽しく学習している。	3.6	3.3	3.0
	2	先生や友達が話をするとき、相手を見て最後までしっかり話を聞いている。	3.2	2.9	2.5
	3	先生や友達に、自分の考えや思っていることをはっきり伝えている。	3.0	2.8	2.5
	4	学習用具の準備や宿題を、毎日きちんとしている。	3.4	3.0	2.8
	5	学習している内容がわからない時は、わからないと先生に伝えている。	3.1	2.6	2.5
や さ し く	1	みんなと仲良くしている。	3.6	3.4	3.0
	2	困っている友達がいたら、声をかけたり手伝ったりしている。	3.4	3.2	3.1
	3	友達の悪口やいじわるをしないということを守っている。	3.3	3.2	2.7
	4	清掃活動や奉仕活動、係活動等に、進んで取り組んでいる。	3.6	3.2	2.9
た く ま し く	1	体育科の学習や外遊びに、進んで取り組んでいる。	3.4	3.3	3.1
	2	登下校や自転車に乗る時は、交通安全に気を付けて行動している。	3.6	3.3	2.9
	3	毎日、好き嫌いなく給食を食べている。	3.2	2.7	2.7
	4	給食の後は、毎日、菌磨きを丁寧にしている。	3.5	2.8	2.9
ふ る さ と	1	地域の人に、自分から進んで挨拶をしている。	3.5	2.9	2.4
	2	学校園の手入れや花植えなど栽培活動に、進んで取り組んでいる。	3.2	2.9	2.5
	3	地域の行事には進んで参加している。	3.5	3.1	2.5
家 庭 の 様 子	1	家庭学習の習慣が身に付いている。	-	2.9	-
	2	早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	-	3.1	-
	3	学校や友達のことについてよく話す。	-	3.2	-
学 校 の 取 組	1	学校便りや学級通信で、教育方針や子供の様子を伝えている。	-	3.1	2.9
	2	教職員は、保護者や地域の方に丁寧に対応している。	-	3.1	3.2
	3	学校は、美しく清掃整理され、安全を保っている。	-	3.2	3.0
	4	学校は、落ち着いた中で分かりやすい授業を行っている。	-	3.1	2.5
	5	今の岡原小学校の教育に満足している。	-	3.0	2.9
岡 原 っ ち ま な ー	お	思いやりのある言葉づかいをしている。	3.3	-	2.3
	か	かっこういいあいさつを、自分からしている。	3.3	-	2.7
	は	はきものをそろえている。	3.4	-	2.6
	る	ルールや時間を守っている。	3.2	-	2.5
	こ	心をこめて掃除をしている。	3.6	-	2.5
働 き 方 改 革		働き方改革の視点を持ち、勤務時間の自己管理や業務の効率化、意識改革等に努めている。	-	-	3.1

児童・保護者の評価を受けた職員自己評価(後期)

		児童 平均値	保護者 平均値	職員 平均値	
評 価 内 容					
か し こ く	1	先生や友達と、楽しく学習している。	3.5	3.2	3.0
	2	先生や友達が話をするとき、相手を見て最後までしっかり話を聞いている。	3.2	2.9	2.6
	3	先生や友達に、自分の考えや思っていることをはっきり伝えている。	3.0	2.8	2.6
	4	学習用具の準備や宿題を、毎日きちんとしている。	3.4	2.9	2.8
	5	学習している内容がわからない時は、わからないと先生に伝えている。	2.9	2.5	2.4
や さ し く	1	みんなと仲良くしている。	3.6	3.3	3.1
	2	困っている友達がいたら、声をかけたり手伝ったりしている。	3.4	3.1	3.1
	3	友達の悪口やいじわるをしないということを守っている。	3.5	3.2	3.0
	4	清掃活動や奉仕活動、係活動等に、進んで取り組んでいる。	3.5	3.1	3.0
た く ま し く	1	体育科の学習や外遊びに、進んで取り組んでいる。	3.4	3.2	3.0
	2	登下校や自転車に乗る時は、交通安全に気を付けて行動している。	3.6	3.2	3.2
	3	毎日、好き嫌いなく給食を食べている。	3.2	2.8	2.8
	4	給食の後は、毎日、菌磨きを丁寧にしている。	3.4	2.9	2.9
ふ る さ と	1	地域の人に、自分から進んで挨拶をしている。	3.5	2.9	2.9
	2	学校園の手入れや花植えなど栽培活動に、進んで取り組んでいる。	3.2	2.9	2.7
	3	地域の行事には進んで参加している。	3.5	3.1	3.0
家 庭 の 様 子	1	家庭学習の習慣が身に付いている。	-	2.9	-
	2	早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	-	3.0	-
	3	学校や友達のことについてよく話す。	-	3.1	-
学 校 の 取 組	1	学校便りや学級通信で、教育方針や子供の様子を伝えている。	-	3.0	3.0
	2	教職員は、保護者や地域の方に丁寧に対応している。	-	3.1	3.0
	3	学校は、美しく清掃整理され、安全を保っている。	-	3.2	3.0
	4	学校は、落ち着いた中で分かりやすい授業を行っている。	-	3.0	3.0
	5	今の岡原小学校の教育に満足している。	-	3.0	3.0
岡 原 っ ち ま な ー	お	思いやりのある言葉づかいをしている。	3.3	-	2.8
	か	かっこういいあいさつを、自分からしている。	3.4	-	2.6
	は	はきものをそろえている。	3.4	-	2.7
	る	ルールや時間を守っている。	3.2	-	2.9
	こ	心をこめて掃除をしている。	3.5	-	3.2
働 き 方 改 革		働き方改革の視点を持ち、勤務時間の自己管理や業務の効率化、意識改革等に努めている。	-	-	3.2

(3) 総括

- 「かしこく」についての評価は、前期同様、保護者・職員共に厳しいものである。共通実践事項（OKシリーズ）の励行による学習規律等の徹底、既に共通理解をした「県学調『ステップ0』の取組」の確実な実施、基礎的・汎用的読解力育成の取組の上に研究主題「対話を通して～」に焦点化した授業づくりをより一層進めていく必要がある。
- 「友達の悪口や意地悪をしない」については、児童自己評価が、ここ3年間で最も良い状況である。「4」が50%を超えたのも「1」が0%も初めてである。「4」「3」で97%という高水準も初めてで、児童自身が意識しながら学校生活を送っていることは間違いない。全職員の共通理解による共通実践の成果であると思われる。今後も継続して、人権感覚や道徳性、想像力等を育てていかなければならない。
- 「給食後の歯磨き」の評価が、前期同様良くない。原因を丁寧に分析し、今後、改善に向けた取組を進めていく必要がある。
- 学校内での挨拶は随分と良くなっているが、「地域の人に進んで挨拶」できるようにはまだなっていないようである。挨拶をすることが習慣となるよう、児童主体の取組を粘り強く進めていく必要がある。
- 「学校の取組」についての保護者評価は、おおむね良好な状況である。学校教育は、保護者や地域住民からの信頼があってこそ成立するものであるため、更なる信頼獲得や教育効果増大のため、今後も丁寧な取組を進めていかなければならない。
- 職員の働き方改革についての意識が高い。今後も、全職員で知恵を出し合い、一緒に考え実践していかなければならない。
- 岡原っ子マナー「心を込めて掃除」に係る職員の評価が、前期に比べ随分と好転している。全職員の共通理解による共通実践の成果である。
- できるかぎり保護者との認識のずれをなくすため、学校での出来事を保護者に伝えていく際には、丁寧に伝えていく必要がある。ケースにもよるが、文字よりは電話、電話よりは直接会って顔を見て、連携をしていかなければならない。また、共同歩調で課題解決に当たれるよう、日常生活における児童の成果や良さを積極的に発信していく必要がある。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）

	所 属	氏 名	備 考
地域代表	開墾地区老人会長	鶴田 正國	
	令和4年度委員長	宮原 盛幸	委員長
	令和4年度委員	住田さとみ	
	岡原小学校PTA前会長	北川 修二	
	民生児童委員代表	黒木 廣志	
保護者代表	PTA会長	福原 寿	
教育委員会	地域学校協働推進員	平川 公德	
学校代表	校 長	千葉 富美子	
	教 頭	古賀 桂史	
	教務主任	小西 礼展	

(2) 学校関係者評価の実際

< 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：やや課題がある 1：課題がある >

評価の観 点	評価	御意見・御感想
確かな学力の育成 かしこくについて	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 県での学力・学習状況調査の結果を拝見いたしましたところ、着実に成果が上がっていて、大変うれしく思いました。 学力の育成については、児童一人一人の特性がありますので、評価しにくいところです。私自身の感想としては、全体的に見て、おおむね達成できたと感じています。 十分達成できていると思います。授業参観で理科の様子を見ることができましたが、ただ正解を教えるだけでなく、一人一人が見て感じ思ったことなどを発表し合う様子から学ぶことを再確認しました。
豊かな心の育成 やさしくについて	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 岡原小では、いじめがないと聞き安心しました。これからも、人として思いやりのある心を持ち、楽しく過ごしてもらいたいです。 岡原小学校の児童は、優しく豊かな心の育成ができていると思います。 人から優しくされることで、自分も人に優しくすることが大事だと学んでいくことができると思います。外部からの講師等も呼んでいただき、心に響く道德教育の充実を更に行っていただければと思います。
たくましい心身の育成 たくましくについて	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 5年生のお米の売り上げを寄付、更に子ども食堂にも寄付と、とても素晴らしいと感じました。でも、ちょっぴり残念だったのは、お米をたくさん買えなかったことです。 体力づくりと健康観察の徹底によりたくましい児童になっていくことが、最も望ましいと思います。 下校後の自転車に乗るときの交通安全に、気を付けてほしいと思います。 学年ごと、いろいろな農業体験を計画していただき、食べ物を自分で育て、収穫し食べることで、心と体を健康に育てていくことができていると思います。運動会では競技するだけでなく、一生懸命に応援している様子を見て、情熱を注げる行事が大事だと感じました。

ふるさとを愛する 心の育成について	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村田産業さんの外国の方々と子供たちとの花植えは、素晴らしいと思いました。運動会や他の行事でも、外国の方々との交流があれば、まだまだ楽しくなれそうな気がしました。 ・ この点については、地域学校協働活動等を通じて、十分に達成できているのではないのでしょうか。 ・ 地域での挨拶の状況は良いです。 ・ 郷土の史跡や歴史について学び、故郷を愛する心を育てていると思います。地名の由来などについても、自分たちで調べていくことも面白いと思います。
その他の 気付き 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、特に地域との連携が強化された 1 年であったように思います。これからも、地域の皆さんとともに、先生方を支え、岡原小学校を活気ある楽しい学校にしていけたらと思っております。 ・ 地域との連携が取れていて、子供たちに多くの体験をさせてあげることができているなど感じております。これからも、地域の中心に学校があり、協力していただける方を大切にすることで、交流の輪が広がっていけばよいなと思います。 	

3 学校関係者評価を受けての次年度の重点

(1) 確かな学力の育成のために

- ア 学習規律の徹底
- イ 校内研修内容の重点化と共通理解・共通実践
- ウ 学習過程・構造的な板書・ノート指導等の共通化→共通実践事項の徹底
- エ 家庭と連携した学習習慣の確立

(2) 豊かな心の育成のために

- ア 人権尊重の視点に立った教育環境（人的環境を含む）の整備
- イ 「特別の教科 道徳」の授業の充実
- ウ 継続した挨拶指導の徹底
- エ 心の居場所・絆づくりの場となる学校・学級経営

(3) たくましい心身の育成のために

- ア 体育科授業の充実（運動量の確保、課題解決的な学習の実践）
- イ 安全教育・安全指導の徹底
- ウ 外遊びの推奨

(4) ふるさとを愛する心の育成のために

- ア 地域について学ぶ学習活動・地域を舞台とした学習活動・地域の方との学習活動（地域学校協働活動）の更なる推進
- イ 地域諸団体の協力（くろばる会の安全見守り等）に対する感謝の気持ちの共有と表現機会の創出
- ウ 挨拶習慣確立のための児童主体の取組の更なる推進

4 参考資料

(1) 保護者評価を受けての保護者への通知文書（前期及び後期）

令和5年8月28日

岡原小学校
各保護者様

あさぎり町立岡原小学校
校長 千葉 富美子

学校についての保護者アンケート（前期）の結果について
残暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のことと拝察いたします。
さて、1学期末に実施しました、お子様の学校での様子や本校の取組に関する保護者アンケート結果について、考察や今後の方向等を含め、下記のとおりお知らせいたします。
つきましては、本結果を今後の学校経営に生かし、より良い岡原小学校にしていきたいと思います。今後、保護者の皆様の御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

記

1 「確かな学力の育成」について

4 3 2 1

① 先生や友達と、楽しく学習している。	31%	64%	2%	0%
② 先生や友達が話をするとき、相手を見て最後までしっかり話を聞いている。	19%	53%	18%	3%
③ 先生や友達に、自分の考えや思っていることをはっきり伝えている。	14%	54%	20%	4%
④ 学習用具の準備や宿題を、毎日きちんとしている。	28%	47%	21%	4%
⑤ 学習している内容がわからない時は、わからないと先生に伝えている。	9%	35%	38%	5%

○ ①については、前回・前々回よりも高評価を頂きました。ただ、「あまり当てはまらない」と回答いただいた御家庭が、2%あります。今後も、全ての子供たちにとって楽しい学校生活となるよう、取り組んでいきます。学習規律や学習習慣形成の取組については、御家庭の協力を頂きながら進めていきます。

また、2学期以降、行事等で来校いただく機会がない月にフリー参観日（仮称）を設け、お子様の学習の様子を見ていただけるよう計画します。改めて御案内します。

2 「豊かな心の育成」について

⑥ みんなと仲良くしている。	43%	49%	5%	0%
⑦ 困っている友達がいたら、声をかけたり手伝ったりしている。	23%	57%	5%	0%
⑧ 友達の悪口やいじわるをしないということを守っている。	26%	53%	7%	1%
⑨ 清掃活動や奉仕活動、係活動等に、進んで取り組んでいる。	20%	58%	5%	0%

○ ⑥については4・3合算で92%と良好な評価を頂きました。ただ、⑧⑨については若干厳しい評価を頂いています。特に⑧については、学校生活の様子からも、児童間の乱暴な言動等に課題を感じているところです。

今後も、全職員で子供たちの学校生活をよく見つめ、「自分も周りの人も大切に作る児童くやさしく>」であるよう、取組を進めていきます。

3 「たくましい心身の育成」について

⑩ 体育科の学習や外遊びに、進んで取り組んでいる。	35%	43%	9%	2%
⑪ 登下校や自転車に乗る時は、交通安全に気を付けて行動している。	31%	58%	5%	0%
⑫ 毎日、好き嫌いなく給食を食べている。	23%	33%	38%	5%
⑬ 給食の後、毎日、歯磨きを丁寧にしている。	16%	51%	31%	2%

○ ⑩については下降傾向です。熱中症予防の指針に沿って、昼休みの屋外遊びを停止したこと等も影響しているように思います。⑪については高い評価ですが、5%の方が子供たちの安全面について心配をされているようです。子供たちの大切な生命と安全を守るため、今後も地域の皆様の力をお借りしながら、安全見守りと安全指導を丁寧に行ってまいります。

今後も、子供たちが生涯にわたって健康で安全な生活を送っていけるよう支援していきます。

* 裏面に続きます。

4 「ふるさとを愛する心の育成」について

⑭地域の人に、自分から進んで挨拶をしている。	24%	46%	25%	2%
⑮学校園の手入れや花植えなど栽培活動に、進んで取り組んでいる。	10%	56%	14%	1%
⑯地域の行事には進んで参加している。	22%	62%	11%	2%

- 子供たちの1学期の挨拶の状況を見ると、学校内においては大変良くなりました。ただ⑭の結果を見ると、地域での挨拶の状況には課題が大きいようです。挨拶をすることの大切さを継続して教えていくとともに、委員会活動等の児童が主体となった取組を、更に広げていきます。今後も、子供たちが保護者や地域の皆様と挨拶を交わしながら、互いに気持ちの良い地域での生活を送れるよう、支援していきます。御家庭でもお声掛けください。

5 家庭の様子について

⑰家庭学習の習慣が身に付いている。	21%	55%	21%	4%
⑱早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	28%	54%	17%	1%
⑲学校や友達のことについてよく話す。	37%	48%	14%	1%

- ⑰については、前回よりも良い評価を頂きました。御家庭でのお声かけのおかげと感謝します。岡原小学校では、テレビやゲーム、タブレット端末等の使用の約束を守ることと併せて、(学年×10+10)分間の家庭学習を勧めています。詳しくは、年度初めに配付した「OK! 家庭学習」を御覧ください。また、子供たちの健康や学習効率への影響等も考え、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣も大切です。今後とも、御協力をよろしくお願いいたします。

6 学校の取組について

⑳学校便りや学級通信で、教育方針や子供の様子を伝えている。	16%	73%	7%	2%
㉑教職員は、保護者や地域の方に丁寧に対応している。	18%	73%	6%	0%
㉒学校は、美しく清掃整理され、安全を保っている。	19%	79%	1%	0%
㉓学校は、落ち着いた中で分かりやすい授業を行っている。	17%	63%	5%	0%
㉔今の岡原小学校の教育に満足している。	12%	68%	11%	0%

- 全てにおいて、4・3合算で80%から90%を超えるほどの高い評価を頂きました。ただ、前回・前々回と比べると、4評価が3評価に移行している傾向にあります。また、厳しい評価をされた保護者の方もおられます。アンケート結果を真摯に受け止め、多くの保護者・地域の皆様から信頼される学校であるために、より一層、諸教育活動及び保護者・地域の皆様との連携に、丁寧に取り組んでいきます。

ここまで記した六つの内容以外についても、保護者の皆様におかれましては、様々な受け止めがあるかと思えます。御不明な点や気にかかっておられる点等については、学校までお問い合わせください。

今後、アンケート結果を真摯に受け止め、より一層の保護者・地域の皆様との連携により、「ふるさと岡原を愛し、自ら学び、心豊かでたくましく生きる岡原っ子の育成」の学校教育目標の下、教職員一同、お子様一人一人を大切に教育活動を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

岡原小学校
各保護者様

あさぎり町立岡原小学校
校長 千葉 富美子

学校についての保護者アンケート（後期）の結果について
 新春の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のことと拝察いたします。
 さて、2学期末に実施しました、お子様の学校での様子や本校の取組に関する保護者アンケート結果について、考察や今後の方向等を含め、下記のとおりお知らせいたします。
 つきましては、本結果を今後の学校経営に生かし、より良い岡原小学校にしていきたいと思います。
 今後も、保護者の皆様の御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

記

1 「確かな学力の育成」について

4 3 2 1

① 先生や友達と、楽しく学習している。	26%	65%	4%	0%
② 先生や友達が話すときは、相手を見て最後までしっかり話を聞いている。	13%	59%	18%	2%
③ 先生や友達に、自分の考えや思っていることをはっきり伝えている。	13%	51%	21%	5%
④ 学習用具の準備や宿題を、毎日きちんとしている。	26%	43%	23%	9%
⑤ 学習している内容がわからない時は、わからないと先生に伝えている。	7%	37%	33%	6%

○ ①について、おおむね良好な評価を頂きました。ただ、「あまり当てはまらない」と回答いただいた御家庭が、4%あります。②③⑤に係る取組を丁寧に行うことで、全ての児童が楽しいと思える学習活動創りを進めます。また、④に対する評価が下降気味です。学校においては、家庭学習の内容や学習用具等について、丁寧に確認を取ったり声をかけたり、お便りで伝えたりしていきます。御家庭におきましても、お子様の状況に応じて、丁寧に確認いただいたり声をかけていただいたりすることで、自律的な力が育っていくと思えます。よろしくお願い申し上げます。

2 「豊かな心の育成」について

⑥ みんなと仲良くしている。	34%	60%	6%	0%
⑦ 困っている友達がいたら、声をかけたり手伝ったりしている。	18%	62%	7%	1%
⑧ 友達の悪口やいじわるをしないということを守っている。	26%	57%	7%	0%
⑨ 清掃活動や奉仕活動、係活動等に、進んで取り組んでいる。	19%	56%	9%	1%

○ ⑥については4・3合算で94%と良好な評価を頂きました。⑧については、若干ですが前期よりも良い評価を頂いています。子供たちの自己評価も大きく好転しており、学校生活の様子からも子供たちが意識をして生活していることが伺えます。学校と家庭で、継続して励ましていけたらと思います。今後も、全職員で子供たちの学校生活をよく見つめ、「自分も周りの人も大切に作る児童<やさしく>」であるよう、取組を進めていきます。

3 「たくましい心身の育成」について

⑩ 体育科の学習や外遊びに、進んで取り組んでいる。	40%	38%	12%	4%
⑪ 登下校や自転車に乗る時は、交通安全に気を付けて行動している。	26%	60%	4%	2%
⑫ 毎日、好き嫌いなく給食を食べている。	26%	33%	33%	7%
⑬ 給食の後は、毎日、歯磨きを丁寧にしている。	21%	46%	32%	1%

○ ⑪については、ほぼ前期と同様に高い評価ですが、6%の方が子供たちの安全面について心配をされています。子供たちの大切な生命と安全を守るために、予想される危険の回避や安全面の配慮等については、学校で丁寧に指導してまいります。御家庭でも話題にさせていただくとともに、学校と家庭、地域の皆様が一体となって、子供たちに繰り返し教えていければと思います。今後も、子供たちが生涯にわたって健康で安全な生活を送っていけるよう支援していきましょう。

* 裏面に続きます。

4 「ふるさとを愛する心の育成」について

⑭地域の人に、自分から進んで挨拶をしている。	21%	45%	23%	3%
⑮学校園の手入れや花植えなど栽培活動に、進んで取り組んでいる。	10%	57%	13%	2%
⑯地域の行事には進んで参加している。	24%	61%	12%	3%

- 子供たちの学校生活を見ると、1学期にも増して、挨拶の状況は大変良くなりました。ただ⑭からは、地域での挨拶の状況に課題が大きいことがわかります。挨拶をすることが習慣となるよう、児童主体の取組や指導を継続していきます。御家庭におかれましても、「おはよう」「行ってらっしゃい」「お帰り」等の日常の挨拶が笑顔で交わされますよう、御配慮ください。
栽培活動については、学年は限られますが、学校プール横や旧岡原中学校前の花壇を、心を込めて整備しています。お時間があります際には、お立ち寄りください。

5 家庭の様子について

⑰家庭学習の習慣が身に付いている。	24%	40%	30%	4%
⑱早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	29%	46%	19%	5%
⑲学校や友達のことについてよく話す。	28%	59%	13%	1%

- 4・3合算で、⑰が-12ポイント、⑱が-7ポイントと、前回評価よりも大きく下降しています。早寝・早起き・朝ごはんの習慣は、成長期における栄養補給や生活習慣の育成、心身の健康の保持につながります。また、体内時計が整うことにより、学習等への集中力がアップします。家庭学習の習慣を身に付けることは、進級や進学、今後の進路を考えても大事なことと言えます。学校においては、機会を捉え家庭学習及び早寝・早起き・朝ごはんの習慣の大切さを教えていきます。御家庭におかれましても、お声かけや確かめをよろしくお願いします。

6 学校の取組について

⑳学校便りや学級通信で、教育方針や子供の様子を伝えている。	14%	73%	10%	1%
㉑教職員は、保護者や地域の方に丁寧に対応している。	19%	69%	5%	1%
㉒学校は、美しく清掃整理され、安全を保っている。	17%	80%	2%	0%
㉓学校は、落ち着いた中で分かりやすい授業を行っている。	7%	71%	3%	0%
㉔今の岡原小学校の教育に満足している。	10%	79%	9%	1%

- ほとんどの項目において、4・3合算で80%から90%を超える高い評価を頂きました。ただ、㉓については80%に満たない結果となりました。また、他の項目についても、厳しい評価をされた方がおられます。これらの結果を真摯に受け止め、多くの保護者・地域の皆様から信頼される学校であるために、丁寧に取組を進めます。3学期も、学習成果発表会や「OK Go Go Day.」の御案内をします。ぜひ来校の上、子供たちの頑張りや本校職員の取組を御覧ください。

ここまで記した六つの内容以外についても、保護者の皆様におかれましては、様々な受け止めがあるかと思えます。御不明な点や気にかかっておられる点等については、学校までお問い合わせください。

今後、アンケート結果を真摯に受け止め、より一層の保護者・地域の皆様との連携により、「ふるさと岡原を愛し、自ら学び、心豊かでたくましく生きる岡原っ子の育成」の学校教育目標の下、教職員一同、お子様一人一人を大切に教育活動を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 「令和5年度熊本県公立学校『心のアンケート』～楽しい学校生活を送るために～」の集計結果（一部抜粋）及び分析と今後の方向性

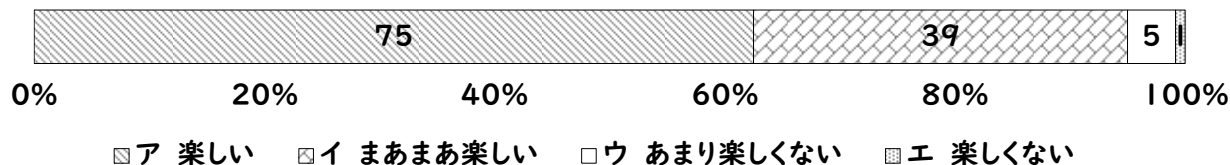
問	選択肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
問1(1) 学校が楽しい	ア 楽しい	20	16	10	10	10	9	75
	イ まあまあ楽しい	1	8	8	7	7	8	39
	ウ あまり楽しくない	0	2	1	0	1	1	5
	エ 楽しくない	0	0	0	1	0	0	1
問1(2) 誰かの役に立っている	ア ある	16	8	6	5	5	3	43
	イ 少しある	4	8	7	4	10	13	46
	ウ あまりない	1	7	3	6	2	2	21
	エ ない	0	3	3	3	1	0	10
問1(3) 授業がよくわかる	ア わかる	8	11	7	6	7	9	48
	イ まあまあわかる	10	12	10	9	11	9	61
	ウ あまりわからない	3	1	1	3	0	0	8
	エ わからない	0	2	1	0	0	0	3
問1(4) 自信のあることや自慢できるものがある	ア ある	14	18	8	7	12	9	68
	イ 少しある	4	3	10	4	4	7	32
	ウ あまりない	1	1	1	5	2	2	12
	エ ない	2	4	0	2	0	0	8
問2 いじめられたことがあるか	ア ある	7	1	3	0	2	0	13
イ ない	14	25	16	18	16	18	18	107
問6 いじめは続いているか	ア 続いている	0	0	0	0	0	0	0
	イ 続いていない	7	1	3	0	2	0	13
問7 誰かに話したか	ア 話をした	4	1	2	0	2	0	9
	イ 話をしていない	3	0	1	0	0	0	4
問11 相手が嫌と思うことを言ったりしたりした	ア ある	2	7	8	0	0	5	22
	イ ない	19	19	11	18	18	13	98
問13 いじめを見たり聞いたりしたことがあるか	ア ある	4	1	2	0	0	0	7
	イ ない	17	25	17	18	18	18	113
問16 クラスにいじめを許さない雰囲気はあるか	ア ある	4	12	8	3	3	5	35
	イ 少しある	8	7	5	8	11	11	50
	ウ あまりない	1	1	4	1	0	1	8
	エ ない	3	2	0	1	0	0	6
	オ わからない	5	4	2	5	4	1	21
問18 家で自由に使える情報通信機器を持っているか	ア スマートフォン	5	5	11	6	7	6	40
	イ 携帯電話	2	4	6	7	0	1	20
	ウ パソコン	1	3	3	4	1	1	13
	エ タブレット端末	9	7	11	6	6	4	43
	オ 携帯音楽プレーヤー	1	0	3	2	1	0	7
	カ ゲーム機器	8	11	7	12	12	14	64
	キ 持っていない【B】	2	5	2	4	4	3	20

問19 自由に使える情報通 信機器で、ネット上で 悪口を書いたり仲間 外れをしたりしたこと はあるか	ア 悪口はある			0	0	0	0	0
	イ 仲間外しはある			3	0	0	0	3
	ウ 悪口も仲間外しもある			0	0	0	0	0
	エ どちらもない			14	14	14	15	57
問20 自由に使える情報通 信機器で、ネット上に 個人情報を書いたこと はあるか	ア 自分のことはある			0	0	0	0	0
	イ 友達のことはある			0	0	0	0	0
	ウ 自分も友達もある			0	0	0	0	0
	エ のせたことはない			17	14	14	15	60
問21 家庭でのルールが あるか	ア ある			8	12	13	9	42
	イ ない			9	2	1	6	18
問22 22時から5時まで使 わないというルール を守っているか	ア いつも守れている			10	6	7	3	26
	イ 時々守れないことがある			5	5	4	6	20
	ウ ほとんど守れていない			0	2	0	0	2
	エ ぜんぜん守れていない			0	0	0	2	2
	オ 時間の決まりごとは決めていない			2	1	3	4	10
問26 1日の使用時間	ア 30分未満			7	6	3	3	19
	イ 30分～1時間			5	4	5	1	15
	ウ 1時間～1時間30分			0	4	4	7	15
	エ 1時間30分～2時間			1	1	1	0	3
	オ 2時間～2時間30分			0	1	0	3	4
	カ 2時間30分～3時間			0	1	1	1	3
	キ 3時間以上			6	1	4	3	14

「令和5年度熊本県公立学校『心のアンケート』～楽しい学校生活を送るために～」の
集計結果（一部抜粋）及び分析と今後の方向性

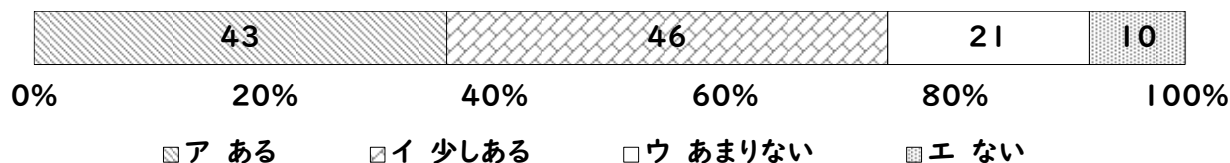
令和6年1月31日
教頭

問1(1) 学校が楽しい



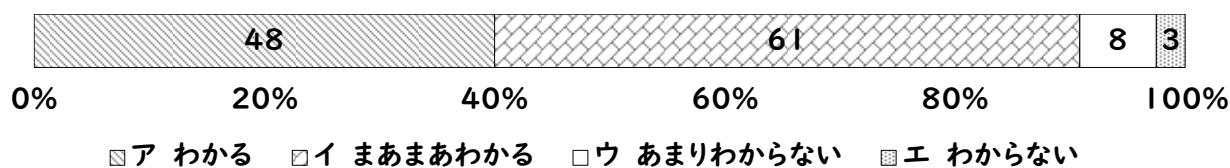
「楽しい」「まあ楽しい」合わせて114人(95.0%)である。学校においては、児童間のトラブルや教師からの指導等の「楽しくない」出来事が少なからずある。そのような中において、昨年度に比べ2.4ポイント増、一昨年度に比べ7.8ポイント増の本結果は「良」である。ただ、「あまり楽しくない」が5人、「楽しくない」が一人いることを、大事に受け止めなければならない。これまで以上に、友達とのつながりや学習面等、児童一人一人をよく見つめ、それぞれに“心の居場所”を感じられる学級経営や学習指導、分掌運営等に努めなければならない。

問1(2) 誰かの役に立っている



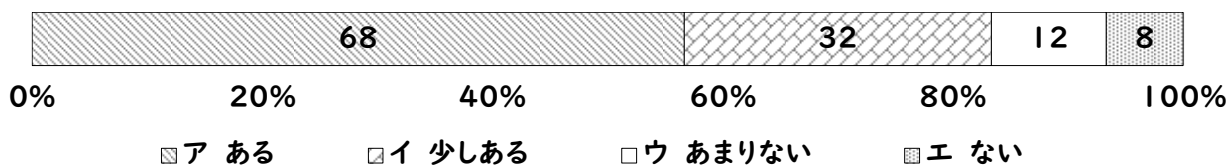
「ある」「少しある」合わせて89人(74.1%)である。自己有用感、他者との関わりを前提とした自身に対する肯定的な感情であり、これまでの日常生活や学校生活において、仲間や家族、周囲の大人等から認められてきた経験の結果である。本結果は、昨年度比0.6ポイント増、一昨年度比25.7ポイント増と向上傾向にあり、児童と彼らを取り巻く他者との関わりが良好であったと考えられる。今後も継続して、「ありがとう」「助かるよ」等の感謝の言葉が当たり前になり飛び交う岡原小であるために、支援をしていかなければならない。

問1(3) 授業がよくわかる



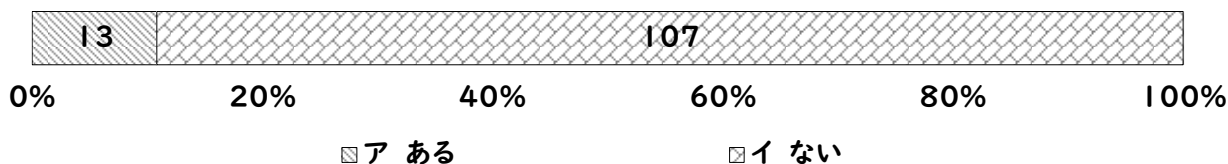
「わかる」「まあわかる」合わせて109人(90.8%:昨年度比4.9ポイント増、一昨年度比13.2ポイント増)である。児童に、「確かな学力」を含む生きる力を育むのは、我々の使命であり、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プランの取組8(34の取組中)で、「確かな学力の育成」が挙げられている。また、学力向上はキャリア教育の大きな柱でもあり、不登校の未然防止に関わっても、学校が「分かる喜びを感じる場」であることが重要である。継続して、熊本の学び推進プランに沿った授業改善及び読解力向上の取組を進めていかなければならない。

問1 (4) 自信のあることや自慢できるものがある



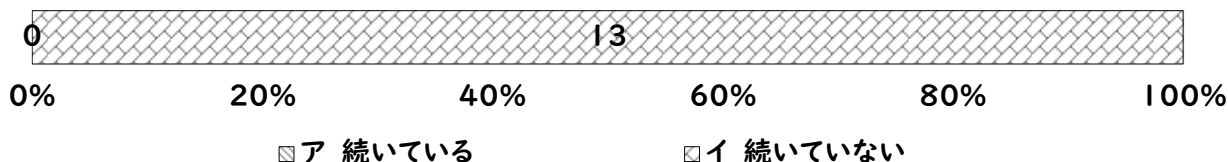
「ある」「少しある」合わせて100人(83.4%:昨年度比6.6ポイント増、一昨年度比17.0ポイント増)である。児童が「自信がある」や「自慢できる」と思えるのは、他者から認められたことや褒められたことが基盤となっていることが多い。私たちは、様々な学校生活場面で児童の姿を多面的に捉え、良さを見つけ、タイムリーに認め・具体的にはめ・力強く励まし・伸ばす教育で自己肯定感を育み、「ある」「少しある」を合わせて100%にすることを目指さなければならない。

問2 いじめられたことがあるか



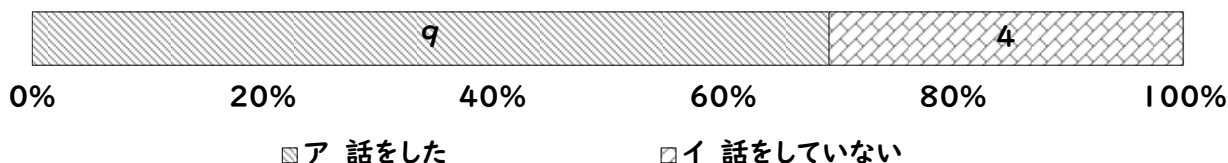
「ある」と答えた児童が13人(10.8%:昨年度比14.8ポイント減、一昨年度比16.4ポイント減)である。相手は、「同じクラスの人11人」「上級生2人」等であり、内容は「冷やかしのからかい5人」「殴られた・蹴られた4人」「仲間はずれ4人」「言いがかり・脅し2人」「物を隠された・汚された一人」「無視された一人」であった。私たちは、児童相互のより良い関係創りを支援しつつ、喧嘩やふざけ合いであっても心身の苦痛を感じている児童がいないか、いじめに係るアンテナを常に高くしておく必要がある。

問6 いじめは続いているか



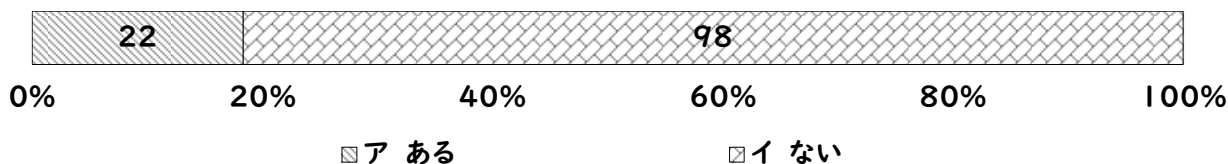
「続いている」と答えた児童が0人、この3年間で初めてである。今後も、様々な生活場面で注意して見(観・診)ていく必要がある。何よりも大事なものは、「いじめ」が起きないように日々の教育活動を大切に、正義が通る学級風土を築くことである。その上で、トラブルが起きた際により良い解決に向かうよう、児童自身に力を付けてやらねばならない。また、家庭連絡をした際に、正しく受け止めてもらえるよう、保護者との信頼関係を日常的に築いておく必要がある。

問7 誰かに話したか



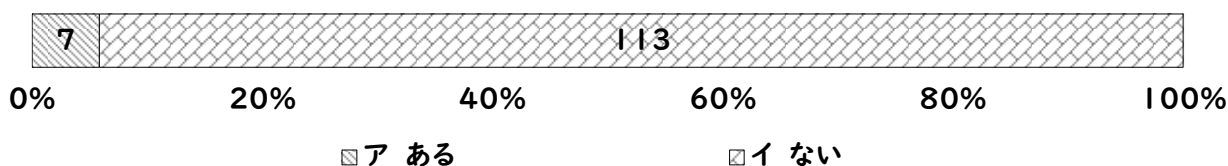
「話をした」児童は9人(69.2%:昨年度比8.2ポイント減)で、話した相手は「担任の先生7人」「養護の先生2人」「他の先生3人」「家族4人」「友達や先輩3人」等という結果であった。4人(30.8%)の児童が「話をしていない」こと、のべ12人が「先生」に話していることから、私たちは、日頃から児童との信頼関係づくりに努め、いつでも相談を受けられるような振舞いを心がける必要がある。また、児童自身に、ストレスに対処できる力、SOSを出すことができる力を育ててやる必要がある。→ストレス対処教育

問11 相手が嫌と思うことを言ったりしたりした



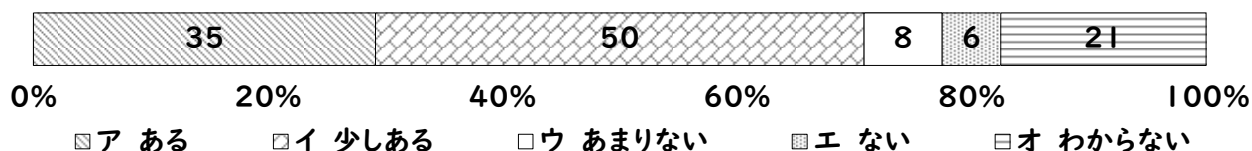
「言ったことがある」児童は22人(18.3%:昨年度比12.3ポイント減、一昨年度比16.9ポイント減)、「ない」児童は98人(81.7%)である。この数字が実態そのままかは置いといて、多くの児童が「相手が嫌と思うことを言ったりしたりしてはいけない」という意識を持って学校生活を送っていることは間違いがないと思える。ただ、「ない」児童の多くは「ない」のであろうが、自覚もなく反省もなく「ない」と答えている児童も相当数いると考えられる。継続して、児童の姿をしっかり見つけ、人づくりとしての積極的な生徒指導に努めなければならない。

問13 いじめを見たり聞いたりしたことがあるか



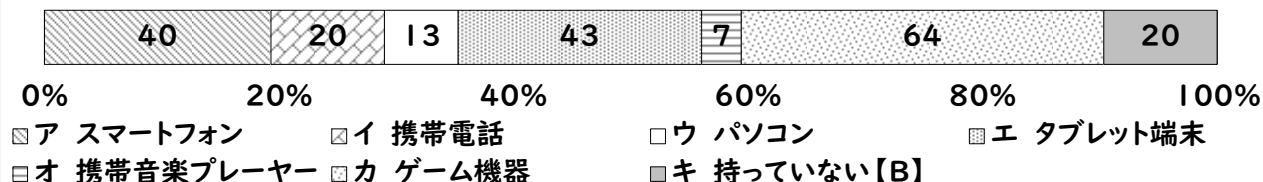
「見たり聞いたりした」児童は7人(5.8%:昨年度比13.2ポイント減、一昨年度比11.8ポイント減)である。その際、全ての児童が、「話を聞いた、声をかけた5人」「注意した4人」「先生・友達・家族に話した5人」との行動を起こしている。昨年度まで、「黙って見ていた」「その場を通り過ぎた」児童がいたことを考えると、問題を解決しようとする意欲と態度が身に付いてきたものと思われる。今後更に、自他問わずこのような場面に出合った際に、「やめて」「助けて」「助けてあげて」などと、状況に応じた対応ができるよう教えていく必要がある。

問16 クラスにいじめを許さない雰囲気はあるか



「いじめを許さない雰囲気」が「ある」「少しある」合わせて85人(70.9%:昨年度比14.7ポイント増)である。「あまりない」「ない」と回答した児童は14人(11.7%:昨年度比6.4ポイント減)である。「いじめられた」「いじめを見た・聞いた」児童とこの14人が同一かはわからないが、少なくともこの14人にとっては、在籍学級は安心して過ごせる場所ではないのかもしれない。私たちは、「いじめは絶対に許されない行為である」という認識を、あらゆる機会を通じて全ての児童に育てていかなければならない。

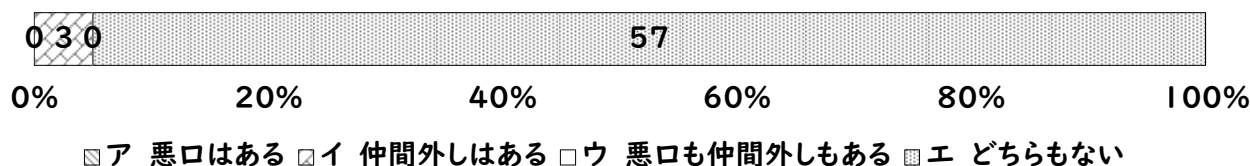
問18 家庭で自由に使える情報通信機器を持っているか



回答児童数120人のうち、「持っていない」児童20人を差し引き、100人(83.3%)が何らかの機器を「持っている」ことになる。回答の結果から端末を持っている児童が延べ187人であるため、複数台所有(平均約1.87台:昨年度比0.17台増)する児童がいる。今後、様々な場面を通じて、情報通信機器利用に係るルール作りやモラルの指導等について、熊本県作成のパンフレットやあさぎり町のガイドライン等を活用しながら、家庭と連携し進めていかなければならない。

※ 設問19、20、21、22の回答対象は、問18の機器所有児童100人のうちの3年生以上60人

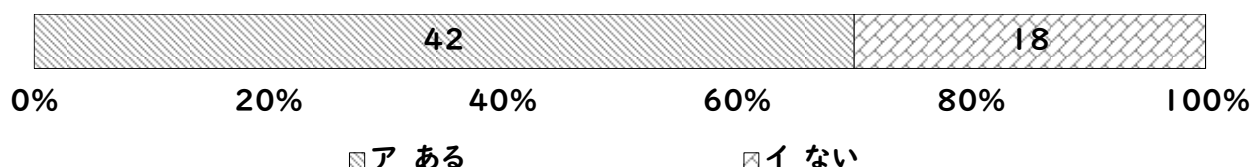
問19自由に使える情報通信機器で、ネット上で悪口を書いたり仲間外れをしたりしたことはあるか



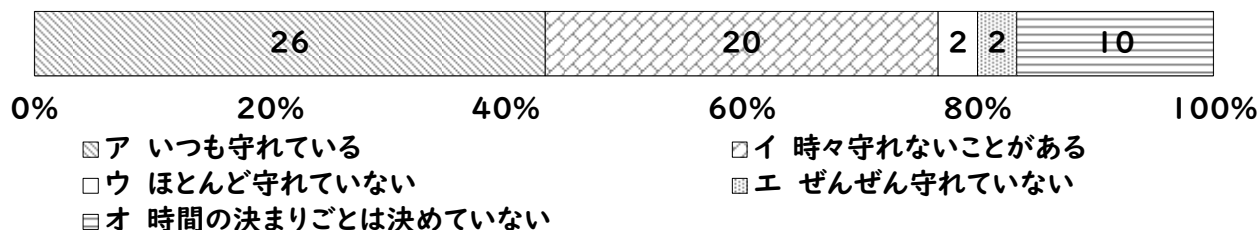
問20自由に使える情報通信機器で、ネット上に個人情報を書いたことがあるか



問21 家庭でのルールがあるか



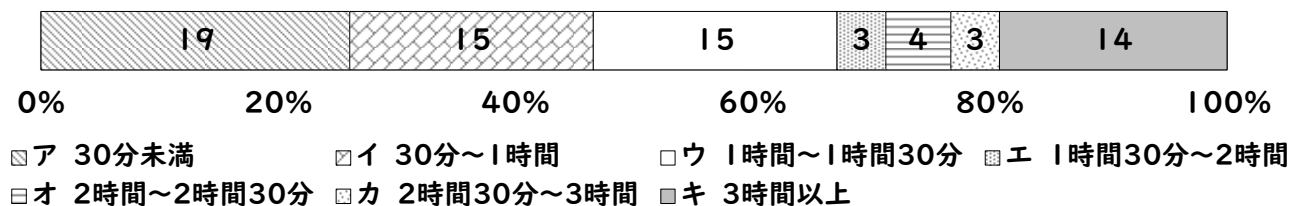
問22 22時から5時まで使わないというルールを守っているか



ある特定の学年で、「仲間外し」をしたことがあるのが3人、個人情報掲載は0人である。家庭でのルールについては、多くの児童が「ある」と答えてはいるが、18人(30%)の児童が「ない」としている。「22時から5時まで使わない」ルールを、46人(76.6%の児童は)がおおむね守っているものの、「ほとんど・全然守れていない」児童4人と「決まりごとを決めていない」10人の合わせて14人(23.3%)は、おそらく使い放題ではないかと思われる。

繰り返しになるが、児童への情報通信機器の利用に係るルール作り等の指導と併せて、各家庭への情報発信を進めていく必要がある。また、リアルな社会においてもネットワーク上においても、他者と良好な関わりを築いていけるために、「自分も周りの人も大切にす児童<やさしく>」を目指して、人権感覚を磨き道徳性を備えた児童を育てていかなければならない。

問26 1日の使用時間



34人(46.5%:昨年度比1.7ポイント増、一昨年度比±0ポイント)の児童が1時間以内であるが、それ以外の児童については1時間を超えている。3時間以上と答えた児童も14人(19.2%:昨年度比8.7ポイント増、一昨年度比2.9ポイント増)おり、健康面や生活習慣について心配されるところである。昨年度に比べ、全体的に使用時間が長い方に少しずつ移行している印象である。学校においても、様々な機会を捉え、健康面や生活習慣の面、使用目的の面等多面的に、適正な使用についての指導をしなければならない。

ここ3年間の状況を見ると、情報通信機器に係る実態を除き、自己の捉え方を含めた児童の状況は、大きく、本当に大きく改善傾向にあると言えます。先生方の、日頃の指導の積み重ねの成果と言えます。

私たち教職員が、「学校が楽しい」と思えるよう個に応じた“心の居場所”を整えることで、児童が互いに“絆づくり”を行い、「自分も周りの人も大切に作る児童」に育ちます。そのような「人権が尊重される環境」及び「人権が尊重される人間関係」の中において、「人権が尊重される学習活動」を展開することで、“わかる喜び”を感じる「よく考え進んで学習する児童」「心身ともに健やかで、ねばり強い児童」を育てていきましょう。

このような「人権尊重の視点に立った学校づくり」を全職員で進めていくことが、「ふるさと岡原を愛し、自ら学び、心豊かでたくましく生きる岡原っ子の育成」の実現を可能にすると思われまます。よろしくお願ひします。